

- 子どもを持つ親としては、最近のいじめ問題でのニュース等を見てすごく心を痛めることがあります。

県の教育委員会がいじめによる自殺とかで謝罪の場面とか見たことがあります、根本的なところが違うような気がして違和感を感じます。学校では人権集会を開いたり、作文を書かせたり、パンフレットを配ったりと何かあるたびに何らかのアクションを起こしているようですが、なかなか子どもたちにその意識が根付いていないと思います。

(県央/女/50歳代/医療福祉)

- 私が特に気になっている問題は子どもの問題です。朝ご飯を食べずに学校に行く、不登校、親の虐待、世間の偏見など例をあげるときりがなくらい問題があると思う。将来の日本を支えていく子どもを私たち大人が健康に育てていかないと。そのためには、一人親の子どもが安心してご飯を食べられる場所や安心して留守番ができるサポートがあれば虐待や無理心中、子どもの非行を減らすことになるのではと思います。日本に生まれてきてよかったと思えるように願う。

(県北/女/50歳代/自営業)

## 5. 障害者・高齢者に関するもの

- 視覚障害者用の点字ブロックが歩道上に整備されているが、この上をまたいで不法駐車をよく見かける。積極的に社会参加を試みようかとしても歩行困難である。車道での駐車違反取り締まりは積極的になされているようであるが、歩道上それも点字ブロック上に白昼堂々と長時間我が物顔で不法駐車があっても野放し状態ではないかと思う。

このあたりは福祉サイド、道路管理者サイド、警察サイドと十分連携され障害者福祉の向上に（人権の侵害の排除）向けてのご努力を願いたい。

(県南/男/70歳以上/無職)

- 息子がADHD&アスペルガーを併発しています。一見、他のクラスメイトの子と何も違いはないのですが、話をしたり授業の時はソワソワしたり、ボーっとしたり集中力がなかったり、少し周りの子と浮いている感じです。なのでADHDとアスペルガーを理解されていない、2つ自体知らない方は少し距離をとられたりして、親のしつけが悪いからとその一言で片付けられます。

最近ではやっと自閉症、ADHD、アスペルガー、失読症など認知されてきましたが、やはりまだまだだと毎日の様に実感します。

(島原/女/30歳代/勤め人)

- 私は35歳のときに交通事故により左手、右足に障害、そして難聴という障害者になった。仕事は国家資格を持っていたのでなんとか続けることは出来たが障害のためにきばきと仕事ができず会社の方にすまない気持ちでいた。しかし会社のほうではそんな気持ちは汲んでくれず何事も成果主義の企業には私たちは邪悪な存在だと思いながら働き続けてきた。今後こんな思いをしないで、皆と仲よく楽しく働ける職場環境作りを行政のほうで企業にきびしく指導していただければいいなと思う。

(県北/男/60歳代/無職)

- 駐車場（公共）で障害者専用がありますが健常者が平気で駐車している人が多く見られます。雨の日などは特に近い事もあって障害者の人権が守られていません。そのような場面に遭遇した時は憤りを感じます。

障害者でもないのに障害者マークを買って当たり前の様につけて停めている人もよく耳にします。今後、障害者マークは店で買えるのではなく手帳などの確認をした上での発行・・・、また駐車場も罰金制度を作るなどのもっと厳しい処置を取ってほしい。

(県央/女/50歳代/その他)

- 私の家族の中に障害者がいます。1級で小学生です。いじめられているようですが、毎日学校にいきます。先生たちの気配り、良い友だち、家族の見守りで頑張っている毎日です。

(離島/男/60歳代/無職)

- 高齢者や障害のある人が暮らしやすい地域社会を作っていってほしい。例えば段差がある所にスロープがあるが、そのスロープは正面には無く、回りこまなくてはいけない事が多い。身体の不自由な人に遠回りをさせて、健常者が近道をするのは人権に優しい社会ではないと思う。

(県央/女/40歳代/主婦(夫))

- 報道などで、高齢者施設（障害者施設）の介護員による虐待があると聞くと、どこでも行われているとは思わないが、もし、このようなことがあるなら家族としては不安である。また、誰でもこのような施設にお世話になるし、もしそうならゾッとします。採用の人選に重きをおくべきと思う。介護員の就業内容に問題があると思う。そのためには介護員の就業内容、報酬の見直しが必要だと思う。余生を安心して過ごせる場所がほしい。

(全て未回答)

- 障害福祉の仕事に従事しているが障害者のおかれている立場はきびしい。障害者権利条約があるのにまだ充実していないし、障害者の生活はきびしい。年金は下がるし生保も少しづつ引き下げられ就労の場も少なく充実していない。もっとみんなの生活がよくなって欲しい。

(県央/女/50歳代/医療福祉)

## 同和問題に関するもの

- 私は小中高は北海道で育ちました。高校のとき、同じクラスにアイヌの人がいました。何故アイヌ人と知ったかは覚えていませんが、クラス全員知っていたと思います。多分、本人がカミングアウトしたのだと認識しています。しかし誰一人アイヌだからと差別はしていませんでした。私の時代は同和問題などありませんでしたが、平等にお付き合いをしていました。

同和教育をすることにより知らなくてもよかった事を知ってしまったが、故に差別をしてしまうのなら同和教育は不要だと思っていました。しかし職場の研修できちんと知って、差別はいけない事だと啓発する事が差別をなくす事だと教えられました。もっと学校や職場、公的機関においてその様な啓発活動は必要だと思います。

(全て未回答)

- 同和問題についてやはり一人一人の意識の問題であり、メディアを利用し、各部落でその問題を取り上げて議論出来るようにしていかないと意識改革は出来ないのではないかと思います。部落だけでなく小学校、中学、高校も同じであろうと思う。パンフレットを配るだけでは無意味だと思う。

(全て未回答)

- 同和問題は、若い人の中ではあまり意識されていないと思う。それなのにこの地域が差別されていたとか知ると、また差別やいじめのきっかけになるのではないかと。こんな悲しい差別があったと、小学生の頃に教えてそれからはあまり取り上げなくてもいいのではないかと。

(県北/女/30歳代/主婦(夫))

## 4. ハラスメントに関するもの

- 私は昔、勤めていた職場でセクハラ、パワハラを受け仕事を続けることができなくなった。その時に相談をした労働基準局の皆さまのおかげで前に進めるようになっていく。

(県南/女/40歳代/勤め人)